

活動の概要

記憶芸術をめぐる研究を継続するとともに、サウンド・インスタレーションを制作・発表した。また学内活動としてはかかわっているプロジェクト研究が今年度で終了した。

1 戦争と記憶芸術に関する研究

記憶芸術において、戦争の記憶をめぐる議論はもっとも重要なテーマのひとつとなっている。自身の制作した作品を糸口として戦争の記憶について考察し、以下の発表をおこなった。

- Akitsugu Maebayashi, "Media Art as an Attempt to Recreating What Has Been Excluded from Public Space" (日本語訳：「公共空間から排除されたものを再現する試みとしてのメディア・アート」), The AJI International Workshop "How Can We Speak of War Memories Today? Reflections from Academic and Artistic Perspectives" 於：立命館大学アジア・日本研究所 (2025年9月6日).

関連して、フィールドワークを実施した。

- 戦後 80 年、韓国における植民地支配の表象をめぐる：歴史博物館、国立中央博物館、植民地歴史博物館、国立現代美術館 等 (於：韓国ソウル市) (2025年6月26日～29日).

以下の作品については継続的にフィールド調査をかさねるとともに、作品のメンテナンスをおこなった。

- 《OKINAWA NOISE MAP》(2016年ー).
<http://153.126.132.180/>
- 《AR 朝鮮人追悼碑》(2024年ー).
<https://sites.google.com/view/gunmanomori>

2 作品制作

以下の作品を制作・発表した。

- 《Deep Time in Tanigumi》緑舎巡礼「詩と歌と土地の語り」 於：緑舎 (2025年11月1日).
- 菅実花+前林明次《Deep Time in Planetarium》(菅実花+前林明次) 於：スイトピア (2025年12月11日).
- 《深い眠りの中へ》スイトピア×イアマス連携事業「エクストリーム・バイオロジーズ展 — 極限環境で生きる、眠る、漂う」 於：スイトピア (2025年12月6日 - 2025年12月14日).



国際ワークショップのプログラム

3 トークイベント

菅田千尋さんによるサウンド・インスタレーションに関連して、以下のアーティストトークに登壇した。

- ・ アーティストトーク「菅田千尋 × 前林明次」 ICHINOMIYA ART WALK III 於：CulturalSpace 生存（2025年11月30日）。

学内での活動

1 委員会

年間を通じて IAMAS のイベント、および研究委員会、学生委員会にかかわった。

2 「場所・感覚・メディア」プロジェクト主担当

プロジェクト主担当として、プロジェクト全体の授業計画および運営をした。場所をめぐるさまざまな議論をとりあげて授業であつかうとともに、トークイベントおよびフィールドワークを複数回開催、実施した。また作品制作を指導し、最終的に展覧会を実施した。

- ・トークイベント#1 「追悼碑の撤去、それでも場所は記憶する」ゲスト：白川昌生（於：カフェ縁舎）（2025年1月25日）。

- ・トークイベント#2 「水脈としてのエコゾフィ」四方幸子（十和田市現代美術館館長）×川瀬 慈（国立民族学博物館教授）（於：カフェ縁舎）（2025年3月22日）。

- ・「場所・感覚・メディア プロジェクト展示」（於：ギャラリー1・2、シアター）（2026年1月23日、1月26日、1月27日）。オープンハウスでは、プロジェクトによるトークイベント「想起と記憶芸術」にコメンテーターとして登壇した。

またプロジェクト研究の展開として、以下の成果を学会発表した。

- ・立石祥子、前林明次（共同、2025年11月29日）「〈複合現実記念碑〉 試論—ヴァーチャルな記憶芸術の体験をめぐる—」情報文化学会第33回全国大会（於：城西国際大学 東京紀尾井町キャンパス）。

3 「Extreme Biologies」プロジェクト分担担当

プロジェクトの運営にかかわった。また、以下の展覧会を実施し、作品を展示した。

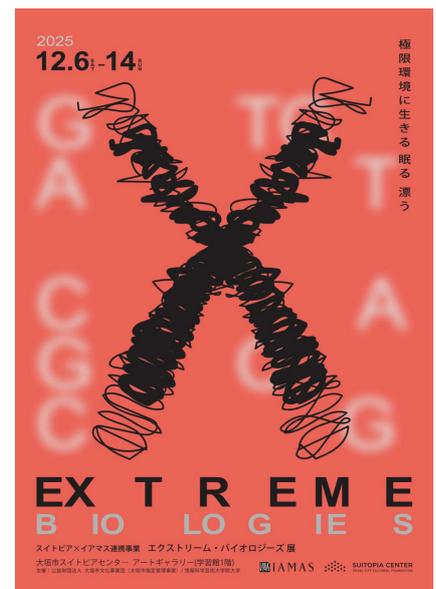
- ・スイトピア×イアマス連携事業「エクストリーム・バイオロジーズ展 — 極限環境で生きる、眠る、漂う」於：スイトピア（2025年12月6日 - 2025年12月14日）。

4 IAMAS 紀要の執筆

IAMAS 紀要に「場所・感覚・メディア」プロジェクト総括」を執筆した（2026年3月公開予定）。



「場所・感覚・メディア」プロジェクトでのフィールドワーク



エクストリーム・バイオロジーズ展のポスター